

第 1533 回 5 月 第一例会

令和 6 年 5 月 14 日（火）に金沢ニューグランドホテルで第 1533 回通常例会が開催されました。



細川会長の冒頭の挨拶では、4 月 27 日に額谷ふれあい体育館で行われた金沢東ライオンズクラブ主催の被災者支援炊き出しボランティアと 4 月 28 日に珠洲市若山小学校で行われた 3 ゾーン合同被災者支援炊き出しボランティアに参加された方々に労いの言葉を

述べられました。特に、珠洲市での炊き出しでは、幹事の多田浩人 L. とお友達の 3 名が参加されたそうです。次に 5 月 9 日に行われた地区年次大会記念チャリティーゴルフコンペについて、160 名参加の大規模なゴルフコンペを大会委員長の内山祥一 L. のもとで成功裡に終わったことに感謝を述べられました。令和 6 年能登半島地震を受けて、「生命と財産」を守る住宅についてお話をしてきました。優れた住宅とは「機能」・「美観」・「構造」のバランスがとれた住宅であると前回お話ししましたが、本日は「機能」についてお話しします。「機能」で最近注目されているのが、「高気密」・「高断熱」・「計画換気」です。

徒然草の作者である吉田兼好は、日本の住宅は「夏を旨とすべし」と書いていますが、最近のいろいろな統計から「冬を旨とすべし」と置き換えるべきであると考えます。1910 年の統計では「夏」の方が死亡者は多かったのですが、1930 年の統計では「冬」のほうが死亡者は多いのです。現在の統計では高温による死亡リスクより低温による死亡リスクのほうが大きいのです。また、イギリスの調査では、先進国を含む 13 개국で日本の家が中国に次いで 2 番目に寒さで人が亡くなっているとのデータもあります。「高気密」・「高断熱」・「計画換気」の住宅に住んでいる人のアンケートでは、13 の病気の症状が軽減されたとの結果がでています。そういったデータから、住宅にとって「高気密」・「高断熱」・「計画換気」を備えることは重要であると述べられて挨拶を終えられました。



各種報告 PR 事項では、幹事の多田浩人 L. から金沢東ライオンズクラブ並びに 3 ゾーン合同被災者炊き出し支援ボランティアについて、まだまだ復興が進んでいない現状があるので、これからも支援活動を続けていなくてはならないとの報告があ

りました。334 複合年次大会の協力活動については、金沢東ライオンズクラブに 10 名の協力要請がきていましたが、10 名集まりましたとの報告がありました。MC 委員長の永野琢也 L.からは、334D 地区の意識調査アンケートを実施しているので、334D 地区のホームページからアンケート調査に応募して下さいとのお願いがありました。内山祥一 L. から地区年次大会記念チャリティーゴルフコンペの報告がありました。地区スローガンの「ライオンズの灯りをつなごう」のもと、およそ 90 万円の寄付金が集まりました。また協力して頂いた皆様に感謝を述べられました。



5 月にお誕生日ならびに結婚記念日を迎えられた方々のご紹介がありました。誕生日を迎えられたのは、岩井広政 L.・中山恭一 L.・寺井誠 L.・齊藤文博 L.・開田昌宏 L.・大秦徹 L.・東智子 LL.・越田外喜子 LL.・作田恵子 LL.・中山奈美 LL.・村上由紀子 LL.です。



本日のメンバースピーチは、金沢市議会議員の、荒木 博文 L.から「道の歩き方を共に考える」と題してスピーチをして頂きました。今の時代は「VUCA 時代」とも言われています。「VUCA」とは、「Volatility: 変動性」「Uncertainty: 不確実性」「Complexity: 複雑性」「Ambiguity: 曖昧性」という 4 つの言葉の頭文字をとった造語であり、物事の不確実性が高く、将来の予想が困難な状況を意味しています。このような時代のなかでは、「誰の、どのような困りごとを、どのように解決するのか」を困っている人と共に考えていくことが大切で、たとえ解決できなかったとしても、その困りごとを世の中の人に知ってもらうことが大切であると感じています。また、苦しい思いや、悔しい思いをしている人の声を聴いてもらうことが、そういった人の希望につながるとも感じています。この先行きが不透明な時代のなかで、(市議会議員として)様々な課題がでてくると思いますが、自分自身を信じて頑張っていきたいとスピーチして頂きました。

最後にテールツイスターの永野琢也 L.が登場し、ドネーションの発表をしていただいて第 1533 回通常例会は終了しました。

(記事: L.中村吉興計画委員長)